

-
- ①物価指数の作り方について
 - ②消費者物価指数と企業物価指数について
 - ③データを基に直近の物価の状況について
-

①物価指数の作り方の代表に次の2つがある。

1)ラスパイレス指数は、商品の価格に関して基準年の数量をウェイトとして固定して加重平均した総和である。加重平均 m は n 個の数値 x_i 、それぞれに対応するウェイト w_i のとき

$$m = \frac{x_1w_1 + x_2w_2 + \dots + x_nw_n}{w_1 + w_2 + \dots + w_n}$$

となる。基準年の価格 p_0 、数量 q_0 、比較年 t の価格 p_t 、 Σ を商品の総和、 $w=pq$ のときラスパイレス指数は以下の式で計算される。

$$L_t = \frac{\sum p_t q_0}{\sum p_0 q_0} \times 100 = \frac{\sum \frac{p_t}{p_0} w_0}{\sum w_0} \times 100$$

比較年の価格を調査するだけで毎年の比較が容易に可能である。速報性があるため、消費者物価指数などに採用される。また、この指数は基準年の生活（消費動向）をするのに必要な費用が現在どれだけ増えたかを示し、基準年の数量を基にした価格比較である。反面消費動向の変化が大きすぎると指数による判断が困難となる。

2)パーシェ指数は、商品の価格に関して比較年の数量をウェイトとして固定して加重平均した総和である。比較年 t の数量を q_t とするとパーシェ指数は以下の式で計算される。

$$P_t = \frac{\sum p_t q_t}{\sum p_0 q_t} \times 100$$

比較年の財の数量を基にした価格比較であり、比較年の生活をするのに必要な費用が基準年よりどれだけ増えているかを示すものである。毎年の財の数量を入力しなければならないため計算に手間がかかる。したがって速報性に劣る。これは GDP デフレータの作成に用いられる。

②1)消費者物価指数は商品の価格の平均的な変動を測定するものである。ある時点の消費構造を基準に、同等のものを購入した場合に必要な費用がどのように変動したかを指数値で表している。消費構造の変化による変動を測定するものではない。基準となる年の物価を 100 とした数値であり、現在の基準年は平成 22 年の 1 年間としている。5 年ごとに改定している。物価は経済活動が活発になれば上昇率が上がり、停滞気味になると上昇率が低下する傾向があり、消費者物価指数は経済政策を進めていくうえで極めて重要な指標である。消費者物価指数は総務省統計局から毎月 26 日を含む週の金曜日に全国の前月分が公表される。1 月及び 4 月公表時には年平均指数および年度平均指数が公表される。「消費者物価指

数年報」「消費者物価指数月報」が発刊されている。

2)企業物価指数は企業間で取引されるモノの価格の動向を見るための指標である。この指数には「国内企業物価指数」、「輸出物価指数」、「輸入物価指数」が含まれている。この指数は卸売段階での原材料や中間製品の価格変動を指数化している。

国内企業物価指数は国内市場向けの国内生産品を対象にしている。輸出物価指数は輸出品が輸出される段階の価格を対象にしており、輸入物価指数は輸入品が輸入される段階の価格を対象にしている。

企業物価指数は、日本銀行調査統計局が翌々月の第8営業日に毎月公表している。「物価指数季報」や「日本銀行統計」で発刊されている。

③日経新聞12月8日のデータを見ると、消費者物価指数(全国)は、'11年度'12年度は減少しているが'13年度以降は徐々に上昇している。'14年10月分までは17ヶ月連続上昇している。10月は上昇率が初めて減少した。

国内企業物価指数(総平均)は、'12年度に一時下がったが、以降徐々に連続上昇している。2%の物価上昇率を目指して金融政策がとられているがまだまだその成果は上がっていない状況である。

(B)

	国内企業物価指数		消費者物価指数	
	総平均	前年比	全国	前年比
11年度	101.6	-	99.8	0.0
12年度	100.5	-	99.6	-0.2
13年度	102.4	-	100.4	0.8
2013/12	102.8	0.3	100.6	1.3
2014/1	103.0	0.2	100.4	1.3
2014/2	102.8	-0.2	100.5	1.3
2014/3	102.8	0.0	100.8	1.3
2014/4	105.7	2.8	103.0	3.2
2014/5	106.0	0.3	103.4	3.4
2014/6	106.2	0.2	103.4	3.3
2014/7	106.6	0.4	103.5	3.3
2014/8	106.4	-0.2	103.5	3.1
2014/9	106.4	0.0	103.5	3.0
2014/10	105.5	-0.8	103.6	2.9